

## 令和6年度第3回西成特区構想エリアマネジメント協議会 こども子育て専門部会 議事要旨

1 日時 令和7年3月17日(月) 午前10時から午後0時まで

2 場所 西成区役所4階 4-8会議室

### 3 出席者

#### 【有識者】

村上委員(大阪大学)、永橋委員(立命館大学)、水内委員(大阪公立大学)、白波瀬委員(関西学院大学)

#### 【地域メンバー】

荘保委員(わが町にしなり子育てネット代表)、小林委員(NPO法人釜ヶ崎支援機構事務局長)、吉次委員(梅南中学校長)

#### 【西成区】

宇野子育て支援担当課長

#### 【大阪市】

高島企画部企画課事業調整担当課長代理(こども青少年局)、鷹羽指導主事、松田指導主事(教育委員会事務局)

### 4 議事要旨

#### (1) 今後のプレーパークの方向性について

「子育てとあそび場に関する意識調査実施報告書」について、事務局から前回までの集計結果の振り返りを行い、新たにクロス集計に基づく分析結果を報告

・中学校区別による、満足できる遊び場の回答者の分布にばらつきがある状況について  
⇒中学校区(6区)の学校のクラス数(規模)と保護者の意識の違いが影響していると考えられる。

・プレーパークは定点開催よりも巡回開催が良いという意見が高いことについてどう考えるかを確認したい。  
⇒児童だけで校区を超えることができないところが大きなハードルとなっている。また、第2回のご意見でもあったように、本来回答してほしい要対協家庭など、課題のある家庭からは回答されにくく、関心の高い家庭からの回答がこのような結果となっている。

・児童だけで校区を越えて遊び場に行く事ができないというルールがあるのか。  
⇒校区という単位を定めており、他校児童のトラブルを避けるため各学校は一定のルールを設けているが、図書館や安心して遊べる公園などについては校区をまたいでの往来を許可している学校もある。また、学校選択制の関係で校区外から通っているケースもあり、教育委員会として必ずしも校区を越えてはいけないというルールを定めている訳ではない。

・遊び場が必要な児童生徒にとっては、安心感という意味で定点開催が良い。

・ジャガピーパーク、ジャガパーわくわくクラブの参加案内は学校を通じて配布されているが、参加者が少ない。ただ配るだけでなく、周知方法を見直す必要がある。  
また、ベトナムやネパールの外国籍世帯が増えており、地域のネットワークを活用し、広報を広げていけば、新しい参加者の開拓につなげることができる。

・プレーパークの「居場所機能」と「遊び場機能」について、後者については既存の公園を魅力的にすることがどこまで可能なのかを考えながらやりとりを聞かせていただいた。子どもたちや保護者に、先生方と学生をリーダーにして「たんけん・はっけん・ほっとけん！」みたいな公園探検ワークショップをやってみてはどうかと思う。満足不満足に関わらず公園に対する要望として「安全性」、「居場所性」、「トイレの清潔さ」が上がっているが、外遊びをさせることそのものを忌避する保護者の心理も強まっているような気がしている。外遊びをさせることそのものを忌避する保護者の心理も強まっているからこそ、逆に、スタッフがいるプレーパークの存在は重要なものでは改めて感じた。

(事務局より)

もと津守小学校が使用できなくなったため、今後の遊び場として「もと松通り保育所」の利用を考えている。こちらはアクセスが良く空調が完備されている。  
本日いただいたご意見をもとに、次年度以降のプレーパーク事業の開催を考えていきたい。

## (2) ヤングケアラー啓発に関する寸劇とアンケートについて

### ①ヤングケアラーに関する寸劇とアンケートの実施について(第2回からの継続)

「ヤングケアラーの現状と支援に関する調査 2022～児童福祉領域の支援者調査～」、「大阪市西成区の小中学校におけるヤングケアラーの現状と把握・支援に関する調査 2023～公立小中学校の教員調査～」の調査結果より、学校の教員でも気づきにくく、顕在化していないヤングケアラーが存在している可能性があることから、西成区内全小中学校で、道徳等の時間を利用して、ヤングケアラーに関する寸劇を実施、理解を深めたうえで、アンケート調査を実施したいとの提案があった。その提案について、毎月行われている西成区小中学校長会にて各学校の意見を集約し、方向性を当会議で決定することとなった。

(小中学校長会からの意見について事務局より説明)

・学校現場のワークライフバランスが顕著に問われており、教員が寸劇の演者になることで練習時間などに時間を割くことが難しいこと、また、総合学習や道徳の時間をあてることになるので、年間の授業時間数の課題が挙がった。

・寸劇のシナリオを確認する中で、児童生徒が、例えばちょっとしたおつかいに行くクラスメートを見て「お前ヤングケアラーやろ」というような過剰な反応から、いじめ等につながる事が懸念されるという意見が出ていた。

・令和6年度に法改正があり、ヤングケアラーについて「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」と定義づけられた。こども家庭庁からの通知文より、ヤングケアラーについて市区町村で把握していく年に1回程度の調査が望まれると記載があるため、今後の国の動向を注視していく必要があると考える。

・上記より、教員のヤングケアラーに対する理解度の濃淡もあるため、令和7年度については、教員が寸劇の動画を鑑賞し教養を深める必要があるという方向性に至った。

(中学校)

・令和7年度より総合的な読解力の時間が35時間増え、体育祭などの他の行事も取組む必要があり、取組み内容を精選していく必要があることから、授業に寸劇等を組み込むのは難しいと現場から声が挙がっている。

(こども青少年局)

「ヤングケアラー支援の法制化を受けた本市の対応について」法改正の内容と今後の動向について説明。

(教育委員会)

・各学校長に対し、ヤングケアラーの問題に対して積極的に検証を行うように周知しており、教員に対する研修を行っている学校もある。

・年2回児童生徒に対して教育相談を行っており、家庭の状況や学校での困りごとを聞く中でヤングケアラーの問題が潜んでいないかを確認している。

・児童生徒に一人一台の学習者用端末が配給されており、その中にある「相談申告機能」を用いることで、いつでもさまざまな悩みを先生に相談することができ、ヤングケアラーも含めたさまざまな方向からアンテナを張っている状況である。

・現場では「ふうせんの会」のチラシが配布されている。

(委員の意見等)

・ポスター掲示やチラシの配布だけでは届かないため、担任が作成するスクリーニングシートを活用した、こどもサポートネットの役割が重要となる。

・いじめの過剰反応よりは、ヤングケアラーを背負っている子どもたちの現状把握の方が大事である。

・高校生からの支援では遅い。幼稚園や小学生のしんどさを50代の方がかかえていることが多い。「あの頃は」と笑い飛ばせる方はいいが、それが出来ない方は中年後期(40代後半～50代前半)に亡くなっている。こうならないためにも、早い年齢で大人がかかわることはとても重要と感じており、乳幼児～小学生をターゲットとした施策を西成区としてやって欲しい。

・総合学習授業の中に、今回の寸劇等を組み込んで、例えば「読解力」向上に資するような取り組みにできるということは難しいか? 「ヤングケアラーとは何か?」ということを通して読解力、理解力、表現力を向上させるというイメージである。

(まとめ)

・令和7年度、こどもの里よりヤングケアラー啓発の寸劇動画を提供いただき各学校で教員向けの研修を行う。

・ヤングケアラーは法制化前は18歳未満(義務教育世代)であったため子育て支援担当が担当していたが、「子ども・若者」と定義されたため今後の相談窓口は就労支援や、福祉的な側面などをどう展開していくかを考えていく必要がある。

⇒あいりん総合センター跡地南側に建設予定の新労働施設のワンストップ窓口との連携を考えていく必要がある。

## ②ヤングケアラー対策として、令和5年度より新たに開設された事業の実績の確認について (事務局より説明)

○家事・育児訪問支援事業について(令和5年10月1日～)

- ・令和5年度実績 5世帯、利用月数は延べ19月
- ・令和6年度実績 5世帯、利用月数は延べ21月

この事業を必要としている世帯は、子どもに家事を負わせており、支援につながらないという矛盾が生じている。

○外国語通訳派遣事業について(令和5年8月1日～)

- ・令和5年度実績 なし
- ・令和6年度実績 対象児童2名、派遣回数は延べ15回  
(内訳：中学生がいる世帯でタガログ語派遣 / 小学生がいる世帯で中国語派遣)  
要対協児童の利用はなし。

## (3) その他

・あいりん総合センター跡地の活用について

ひとり親家庭の方が仕事の相談に来られた場合、子育てに関する問題に派生することが多いため、ワンストップ窓口として解決につなげる必要があるという意見があった。しかし、子育て支援担当の出張所を新庁舎に配置することは難しく、西成区役所の子育て支援担当にリモート等でスムーズにつながる体制を構築していきたいと考えている。

・令和7年度エリアマネジメント協議会 子ども・子育て専門部会のスケジュールについて

今回は、令和7年度6月頃に開催予定。本日はオブザーバー参加であったが次回から関西学院大学の白波瀬先生も有識者として参加予定。

以上